

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

愛知県豊橋市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

豊橋市SDGs未来都市計画
～豊橋からSDGsで世界と未来につなぐ水と緑の地域づくり～

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

豊橋市SDGs未来都市計画 ～豊橋からSDGsで世界と未来につなぐ水と緑の地域づくり～

(2) 2030年のあるべき姿

- 豊川水系でつながる東三河地域の水環境及び森林環境が持続可能な活動や教育等により保全されている
- 「現在から未来へ」「豊橋・東三河から世界（開発途上国）へ」水道技術が継承され、安全・安心な水が安定的に供給されている

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	安定給水率	2019年3月 100 %	2020年 100 %	2030年 100 %	100%
2	水と緑に係る国内外の支援自治体数	2019年3月 3 自治体	2020年 6 自治体	2030年 9 自治体	50%
3	530運動等参加者数	2019年3月 175,914 人	2020年 38,707 人	2030年 200,000 人	-570%
4	ユネスコスクール認定小中学校数	2019年3月 75 校	2020年 75 校	2030年 75 校	100%
5	大気等環境基準達成率	2019年3月 90.4 %	2020年 90.3 %	2030年 96 %	-2%
6	温室効果ガス削減量（2005年比）	2019年3月 ▲ 7.3 %	2020年 ▲ 6.1 %	2030年 ▲ 25.4 %以上	-7%
7	水と緑に係る国内外の支援自治体数（再掲）	2019年3月 3 自治体	2020年 6 自治体	2030年 9 自治体	50%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

2021年3月時点の530運動等参加者数は38,707人であり、主な減少要因は新型コロナウイルス感染症の拡大を原因とした緊急事態宣言の発令に伴う、各種活動の自粛により530運動実践活動が自粛となったことによる、参加者減少である。そもそも530運動実践活動においては、自治会等の地域での活動がメインとなっており、人口減少や少子高齢化による担い手不足などの課題があるため、持続可能な活動とするための対策が必要である。

また2021年3月時点の大気等環境基準達成率は90.3%となっており、大気、水環境ともにおおむね良好な状態が保たれている。しかしながら、一部の調査項目で環境基準を達成できておらず、引き続き事業場への監視・指導を行いつつ、大気、水環境のモニタリングによりその改善を継続的に確認する必要がある。

さらに温室効果ガス削減量については、▲6.1%となったが、主な要因として、製造業と家庭部門の温室効果ガス排出量の増加によるものである。今後も普及啓発などを行い目標達成に向けて推進する。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	地域や開発途上国での様々な協力活動の推進	水と緑に係る国内外の支援自治体数	2018年度 3 自治体		2019年度 6 自治体	2020年度 6 自治体	2021年度 7 自治体	75%
2	環境教育や環境美化活動等の推進	530運動等参加者	2018年度 175,914 人		2019年度 177,270 人	2020年度 38,707 人	2021年度 185,000 人	-1510%
3	地域資源の利活用による再生可能エネルギーの生産	バイオガスエネルギー利用率	2018年度 100 %		2019年度 100 %	2020年度 100 %	2021年度 100 %	100%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

市とともに豊橋市の地域課題の解決や目指すゴールの達成に向けて連携する企業・団体を登録する「豊橋市SDGs推進パートナー制度」を構築し、持続可能な取組や活動を推進しており、令和3年9月1日現在250企業・団体が登録した。令和2年度はパートナーの具体的な取組事例を学び合い、交流を深める会合を開催した。令和3年度もより一層交流を深め、パートナー相互の連携を強化すべく活動を行っている。

このほか令和3年度は未来を担う若者が豊橋市の目指すまちの姿とSDGsについて調べ、考え、行動し、その活動を応募する「豊橋市高校生SDGsチャレンジ」活動を行っている。豊橋市SDGs推進パートナーが選定した活動に対し「特別賞」を団体として表彰し、用意した賞品を提供する。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

新型コロナウイルス感染症の拡大を原因とした緊急事態宣言の発令に伴う各種活動の自粛により、530運動実践活動も自粛されたことで参加者が大幅に減少した。また、530運動実践活動においては、自治会等、地域での活動がメインとなっており、人口減少や少子高齢化による担い手不足などの課題があるため、持続可能な活動とするための対策が必要である。【再掲】

豊橋市バイオマス利活用センターは地域資源の利活用を目的に「豊橋市バイオマス資源利活用施設整備・運営事業」として整備し運営している。この施設は、下水汚泥、し尿浄化槽汚泥、生ごみを集約し、再生可能エネルギー100%化を目標とし、順調な稼働を維持している。今後も、適切なモニタリング及び市民のゴミ分別の協力のもと、施設の安定稼働を継続し目標値を達成していく。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・水と緑の環境を核として経済、社会、環境の三つの価値に統合的に取り組もうとする提案である。発達途上国への支援も含めて環境面における先進的な取り組みは高く評価される。経済価値と社会価値の創出に具体的な戦略が必要と見られる。

・地域が目指す将来の姿とSDGsの取組の関係が明確でない。より具体化した形でSDGsの取組が展開されることを期待する。

・自律的好循環の取組に改良の余地がある。地域経済の活性化を目指す枠組みをより明確にした活動が実施されることを期待する。